

平成31年度 学力向上プラン

学校名 中央区立 久松小学校

学校の教育目標

「強く」 「正しく」 「豊かに」

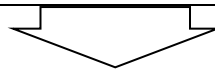
学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

学校の教育目標を具現するため、児童の発達段階に即した学年目標を設定し、児童が意図的・計画的・創造的に学習に取り組む資質・能力・態度を育てることを目指した教育課程を編成する。

平成30年度「学習力サポートテスト」「東京都学力向上を図るための調査」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	読書の習慣が身に付いている。作品の叙述をもとに、登場人物の心情や様子を読み取ることができるが、順序に気を付けて文章を書くことや目的や意図を明らかにしながら分かりやすく文章を書くことに課題がある。促音・拗音・助詞の使い方に課題がある。	主語と述語の関係・段落相互の関係性の理解、接続語や文末表現の活用など、文章を書くための基礎的・基本的な能力を系統的に身に付けていく必要がある。
算数・数学	算数科に対する興味・関心が高い。算数的活動を通して、算数の各領域の基礎的・基本的な知識や技能については習得できているが、こうした能力を基に、筋道を立てて考え問題解決していくことに課題がある。（題意の捉え方・正しい立式の仕方）	算数の各領域で身に付けた様々な知識や技能を関連付けて、課題解決のために活用していく力が不十分である。 日常生活につながる算数的な活動がやや不足している。
社会	生産者として、また地域社会のために働く人々の工夫や努力について理解している。また、社会的現象について具体的な資料を活用して調べたりまとめたりすることができる。課題に対して調べたこと、分かったことを生かしながら自分の考えを整理し、表現することに課題がある。	資料から必要な情報を読み取ったり、関連付けたりしながら、自分の考えを深めたり伝えたりする力が不十分である。
理科	自然現象や実験・観察に対する関心が高く、自分が立てた予想と関連付けてノートに結果を整理することができるが、実験器具の正しい使い方の知識や用語の理解、考察の仕方などに課題がある。	実験の目的や方法と、整理した結果を関連付けながら自分の考えとしてまとめていく力が不足している。 自然に触れたり生き物を育てたりする体験が十分とはいえない。
体育	体育への興味・関心が高く、小集団による学び合いに意欲的に取り組みながら楽しく運動することができる。児童の体力は徐々に向上しているが、筋力や巧緻性・柔軟性、また固定用具等を使った運動遊びの能力について個人差が大きい。体力調査については走る動きは比較的数値が高いが、その他の項目については課題がある。特に、投げる力に課題が見られる。	個々の児童の生活経験や運動の機会の違いが大きく影響している。施設・設備と児童数増加に伴う外遊びの質や量に制限がかかっていることも要因。運動の経験を増やす場所の確保が必要。

学力向上に向けた視点	年度末までの目標及び指標
①学力基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の授業規律や基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る。 ・児童が自ら課題をもち、主体的に学ぶ態度を育てる。 ・児童アンケートで「勉強が好き」な児童8割以上を目指す。 ・児童アンケートで「正しい姿勢で学習する」児童7割以上を目指す。
②授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善を通して、児童の思考力・判断力・創造力・表現力をバランスよく育成する。 ・児童アンケートで「学習がわかる」児童9割以上を目指す。
③教員の指導力	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上委員会が個々の教員の課題を明らかにし、授業力向上のためのプランを立て、実践・検証する。 ・校内研究や授業力向上のための研修会を実施し、教員間で相互に働きかけながら授業改善に取り組む。
④家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や家庭との連携を深め、児童の学力向上に向けた教育活動に理解と協力を求め、より高い学習成果を目指す。 ・家庭学習を毎日、ほぼ毎日する児童9割以上を目指す。
⑤体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の非児童が体力調査での一人一人の記録を上回ることができるよう、児童の体力向上を目指した教育活動を推進する。



【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別指導の充実のために、学習前段階でのレディネステストや学習力サポートテスト等の結果を分析し、個々の児童の学習の習得状況に応じた学習グループを編成する。 ・特別支援教育の観点から巡回指導教員や特別支援教室専門員等と連携を図るとともに、学習環境を改善し、学習支援を必要とする児童一人一人の個に応じた指導の充実を図る。 ・授業規律の向上のために、発達段階に応じた継続的な指導の仕方を教員間で共有し実践する。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な学習内容の定着を目的として、個々の児童のつまずきに応じた指導方法の改善と適切な教材の準備を行い、放課後や夏季休業中の補習を計画的に実施する。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自ら学びたいと実感できる学習課題や必然性のある学び合いの場面を設定する。 ・児童が考えた経緯を自ら振り返ることができるようなノートの書き方・つくり方を指導する。 (見本となるサンプルノートの提示、児童が書いた良いノートの紹介)

②授業改善	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の特性や単元の内容に応じた言語活動の充実を図る。(十分な言語活動の時間の確保) 【まとめる 書く 伝え合う (対話・討論など) 聴き合う 等】 ・主運動につながる感覚づくりの運動を取り入れた授業の充実を図り、身に付けるべきよい動きを習得できるようにする。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアや小グループによる主体的で対話的な学び(小集団活動)を通じた課題解決型学習に取り組む。

	<ul style="list-style-type: none"> ・考えの中心やそれを伝える意図、順序を明らかにして表現する力を身に付けさせるための指導に取り組む。また、そのための時間を確保する。 ・自他の違いを共感的に受け入れる態度を養う。(他者意識と自己認識力の向上、自己肯定感の高まり)たくさん意見交換し合える人間関係を育み、主体的、対話的で深い学びを追求する。。 ・児童が自らの思考の変化や学びの広がり・深まりに気付けるよう、授業終末に学習内容を振り返る活動を行う。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導講師や支援員・指導補助員を交えて授業づくりができるようにする。

③教員の指導力

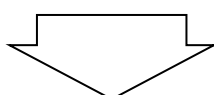
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業や指導教諭・メンタティーチャーによる模範授業の参観、全教員による授業実践報告会など、様々な研究・研修の機会に、これまで取り組んできた授業改善の成果や指導上の課題を意見交換し、情報を提供し合うことによって、個々の授業力の向上を図る。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・教科等の専門性を生かした教師間での交換授業を行い、児童の新たなよさの発見や個々の教員の授業改善につながる情報交換を行う。各教科の専門性を広げたり高め合ったりする。 ・学年間で教材研究できる時間を継続的に確保する。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業における ICT の効果的な活用方法を検討し、児童の主体的な学習を支援するとともに学習内容の確実な理解・定着に役立てる。

④家庭との連携

取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の理解と協力のもとに、児童の学習状況に応じた、放課後・夏季休業中の国語・算数を中心とした補習（個別指導）を実施する。 ・繰り返しの学習や自主学習など家庭学習（宿題を含む）の内容を改善し、児童の学習習慣の定着に向けて家庭との連携を図る。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の体験学習を充実させるために、校外学習や地域学習のボランティア協力を家庭に依頼する。 ・児童の放課後遊びの安全を確保するためのボランティアの協力を募る。 ・家庭での学びの習慣を身に付けさせるために、家庭学習への理解を求める。
取組Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・個人面談や「久松すくすくプラン」を活用しながら家庭と連携し、学校と家庭が児童に身に付けさせたい力を明らかにし確認した上で個別指導に役立てていく。

⑤体力向上

取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に友達と関わり体力を向上する時間を確保するために、生活時程を工夫して年間60回程度のロングの放課後遊びの時間を設定する。 ・安全面に十分配慮しながら、遊びのレパートリーを増やし、多様な動きができるような機会を増やす。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が運動の技能を高め、運動を通じてできる喜びを実感させることを目的として、夏季水泳サポート教室やマット・跳び箱サポート教室を実施する。サポート教室を通して技能が高まった児童を賞賛し、学年や学級で紹介する。



取組Ⅲ	・児童の体力向上や体育学習、マイスクールスポーツ（水泳・なわとび）の充実を図るために、学校裁量の時間を活用し、5・6年の体育科の年間授業時数を10時間増やす。
-----	---

学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題
------------	-------	-------

【取組結果の検証】

①学力基盤		
②授業改善		
③教員の指導力		
④家庭との連携		
⑤体力向上		